

日本白鳥の会の画期的誕生

中 西 悟 堂

瓢湖白鳥保護の祖、故吉川重三郎翁が全身心を挺して百難屈せずその事に当り、翁の呼び声に応じて渡来の全郡が翁の手許に集まるに至り、地元水原町当局の援助もあって人鳥一如の奇跡を実現し、鳥類保護教育上の亀鑑として国の天然記念物に指定され、これが世に喧伝されるや広く日本各地の学童その他から白鳥の餌料、応援の金子等が相次いで寄贈されたことは、蓋しわが国鳥類史上稀に見る偉観でありました。その志を嗣いだ吉川繁男氏がさらにその成果を拡大し、元通産大臣故高崎達之助氏がソ連邦との漁業交渉に、瓢湖の白鳥保護を通じて効果を収め、また近くは英国スリンブリッジの世界水禽会議にその実況を披露して各国学者の絶讃を浴びる等の国際的評価を高めることともなりましたが、併せて水原町当局の企画による大規模の水禽公園設置も計られつつあるようです。一方、重三郎翁の先蹤より青森県大湊湾や小湊湾に渡来の白鳥が遂に三上士郎氏や畠山正光氏の手から直接給餌されるようにもなり、また三上氏は小湊湾の白鳥が地元の漁業組合の強行的な海苔ヒビの敷設のため特別天然記念物そのものが危殆に頻するや敢然阻止の陣頭に立ち、あるいは十三湖の禁猟区化等に尽力されるほか白鳥群の帰去時のコース、雌雄鑑別などにも熱意を傾注されましたが、斯かる間にも全国各地に白鳥の運動が踵を接して起るなど澎湃たる風が漲りましたことは小子の感激を常に新たにするとともにありました。

以上の経過をふまえて先般「日本白鳥の会」が

誕生しましたことはこれまた画期的なこととして喜びに堪えず、会長家田三郎氏の許、全国一丸となって各地関係諸氏が定時定点調査を継続実行しておりますことはこの上ともに将来の大きいみのりを期待させます。今後共にこの連鎖方式活動が、世界への呼び掛けとともに輪を広げ大果を得られますよう希うものであります。貴会昭和50年度総会が東京に於いて開催される好機に際し、何をおいても出席いたし、旧知その他の皆様にお目にかかりたいところでありますが、本年5月以来又々体調宜しからず本年度の日本野鳥の会全国大会にも欠席いたした次第で、9月中は凡そ下旬まで軽井沢に安静中のため当日の出席は覚束なく、茲に書中を以て当日の意義ある盛会を祈り、甚深の祝意と謝意を表するものであります。

昭和50年9月

財団法人日本野鳥の会会長

日本白鳥の会 殿

(第3回日本白鳥の会総会で日本野鳥の会研究員市田則孝氏が披露)